

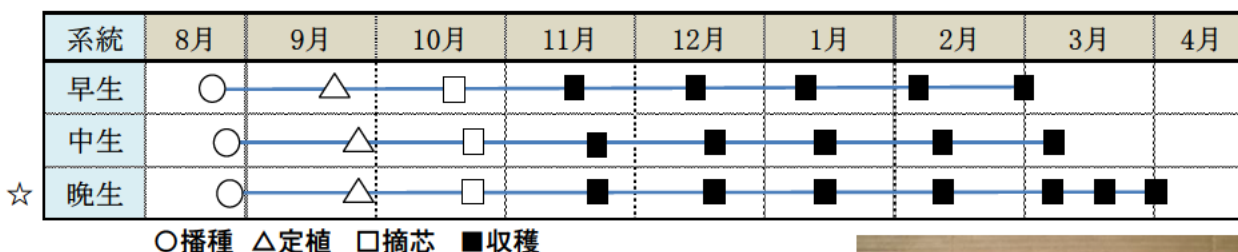
長期収穫ができる多収な「三重なばな」晩生系統

利用対象：ナバナ生産者

三重なばなは、日本一の生産量を誇る三重県の伝統野菜です。これまで、2月下旬から3月上旬まで収穫できる早生系統、中生系統が栽培されていましたが、このたび、4月上旬まで収穫できる晩生新系統を三重なばなブランド化推進協議会と共同で選抜しました。早生系統に比べ、収穫期間を一ヶ月程度延長でき、長期収穫可能になります。



【ナバナ晩生新系統の作型】



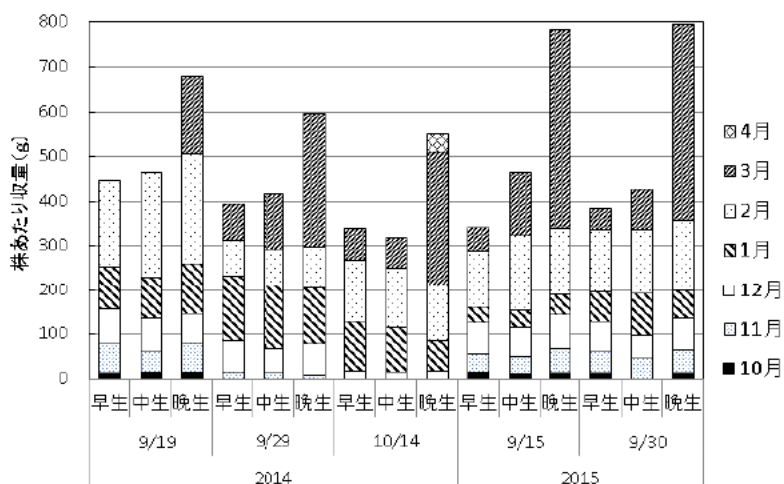
- ・晩生系統は抽苔時期が遅いことから、気温の高い3月に何度も収穫ができるため3月の収量が多くなり、早生や中生系統に比べると、総収量は4割以上増加します。
- ・高温期においても、収穫後の傷みや腐敗が非常に少なく、貯蔵性に優れています。



抽苔時期が遅く（蕾が見えない）、出荷できる

3月18日における各系統の抽苔状況

【収量データ】



【栽培の注意点】

- ・早期の抽苔や茎葉へのアントシアニンの発生を防ぐために、元肥に加えて追肥を定期的に行って下さい。
- ・種子は三重なばなブランド化推進協議会が採種したのを用い、播種前には黒腐病予防のため種子の温湯消毒を必ず行って下さい。

お問い合わせ先	生産技術研究室 野菜園芸研究課 戸谷孝 中央農業改良普及センター 安田幸良	電話 0598-42-6358 電話 0598-42-6716
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm	